

1. 授業の概要(ねらい)

テーマ:被害について(犯罪被害に焦点化して)

春期で学んだ攻撃行動の対極に、攻撃を受ける被害者があります。被害も、加害と同様に、幅広い概念ですが、本授業では犯罪被害に焦点をおいて学びます。

犯罪被害の実情を、社会調査の統計から知ることから始め、さらに心理学的な側面から調べて発表をしていきます。春期で学んだ班別での発表の技術を活かして、テーマを分担選択して発表し、ディスカッションに繋がります。授業の後半では、実際に生じた事件を題材に、被害についてのそれまでの学習を当てはめて検討していきます。

春期に引き続き、発表では司会進行も学生が行います。知識の獲得だけでなく、班活動での関わりや発表の仕方も学ぶ授業です。

2. 授業の到達目標

- ① 犯罪被害の諸側面を、心理学的に理解し、説明することができる。
- ② 犯罪被害についての知識を使って、実際の社会現象や実験室での研究を検討することができる。
- ③ 班別で協力して、課題について調べ、その結果を効果的に伝え、議論が広がるように工夫して発表できる。

3. 成績評価の方法および基準

振り返りシートの提出状況とその内容(20%)、班ごとの発表と討論への参加・貢献(50%)、レポート(30%)の割合で総合評価を行います。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは指定せず、資料は適宜プリントを配布します。

参考文献

グレイ,J. 『これからの犯罪被害者学』 成文堂

フィンケルホー,D. 『子ども被害者学のすすめ』 岩波書店

鈴木伸元 『加害者家族』 幻冬舎新書

山下京子 『彩花へ——生きる力をありがとう』 河出書房新社

山下京子 『彩花へ、ふたたび あなたがいてくれるから』 河出書房新社

土師守 『淳』 新潮文庫

5. 準備学修の内容

班別で調べ、その結果を発表する形式で授業を進めるので、班での準備は、時間外で行う必要があります。効果的に発表が進められるよう、工夫することを期待します。

また、自身が発表の当番でなくても興味を持って、テーマについて予・復習してください。

6. その他履修上の注意事項

各自が工夫をして、フロアでの討議が活発になるよう、意欲的に発表してください。発表者以外の参加者の積極的な議論を期待します。

授業の後半では、実際に起きた事件を題材にして被害を考えていきますので、興味本位に扱わないよう、気をつけてください。

発表、討論、グループ等、動くことを厭わないで学ぶ姿勢を期待します。

7. 授業内容

【第1回】

秋期の授業ガイダンス

授業のすすめ方についての説明。発表テーマによる班編成。発表順序・方法等の決定。
(テーマの例) 被害者学について、犯罪被害の状況、捜査と犯罪被害、メディアと犯罪被害、犯罪被害とPTSD、
犯罪被害に対する心理療法、犯罪加害者の家族、加害者と被害者との対話、など
「被害」についてのイントロダクション

【第2回】 「被害」についての授業 ①

【第3回】 「被害」についての授業 ②

【第4回】 被害についての発表と討論 ①

【第5回】 被害についての発表と討論 ②

【第6回】 発表の振り返りと補足授業

【第7回】 被害についての発表と討論 ③

【第8回】 被害についての発表と討論 ④

【第9回】 発表の振り返りと補足授業

【第10回】 被害についての発表と討論 ⑤

【第11回】 発表の振り返りと補足授業

【第12回】 神戸事件の被害についての発表 ①

【第13回】 神戸事件の被害についての発表 ②

【第14回】 神戸事件の被害についての発表(加害者家族) ③

【第15回】 まとめ、授業の振り返り、レポート提出